



ACEF ニュースレター 2023年9月号



↑ 2023年ACEF秋のセミナーより

もくじ

- ・ <巻頭言> ACEFコミュニティをご紹介：高石孝子評議員、関口ひろみ評議員
 - ・ BDP事務局長が交代します
 - ・ 前BDP事務局長のAlbert Malakarさんが召天されました
 - ・ 2023年ACEF秋のセミナーが開催されました
 - ・ 尊厳のリーダーシップ読書会に出席しました
 - ・ ご案内：10月14日（土）「カラーチーにすむ『ベンガリー』の子どもたちと教育」
 - ・ 9/23聖学院フェアにACEFが出店しました！
 - ・ ご案内：10月1日（日）グロフェス2023
 - ・ ACEFユース：クラブファンのリターン品発送と訂正
 - ・ フェリス女学院ACEFバングラデシュスタディツアー報告会
 - ・ GOEN寄付のイラストコンテスト2022結果が公開されました
- ※PDFのニュースレターはホームページよりダウンロードできます。
▶URL https://acef.or.jp/mail_mag_2023september/
※English version available on homepage!

いつもACEFのメールニュースをご愛読いただきありがとうございます。ACEFの日本での活動とバングラデシュでのパートナーとの共働事業の今を伝えるために、会員、寄付者、イベント等で出会った皆さまにお送りしています。本日はご報告やご案内など12の記事をお届けいたします。

Foreword <巻頭言> ACEFコミュニティについてご紹介

ACEFのハンディクラフトワーキンググループの活動について (高石孝子 評議員)

「バングラデシュの子どもの教育を多くの方に広めたいと願いをもって活動したバカー委員会の名称から啓発活動グループになり現在のハンディクラフトワーキンググループとなりました。バングラデシュの手工芸品も年々変化をしてきました。BDPの裁縫グループの作品も前任のスタッフや作り手の技術が向上するなかで、刺繍のクリスマスカード、象のマスコット、ポシェットもよいものができてきました。教育の充実に必要な支援を日本の学校を始め友の会や教会や個人を通じて広がり、時には製品のリクエストも。



ACEFバングラデシュ手工芸品紹介カタログURL：

<https://drive.google.com/file/d/1ZWI8y4fuZU3e1j22G0eviJ185sYtJGAW/view>





以前のバカー委員会では毎月お仕事会として意見を交わしつつ新しい品の開発にも力を出しました。コロナ禍ではインターン生の発案でバングラデシュの子どもの絵をカードにして、会えない時でも気持ちをバングラデシュへ向けることができますようにと作製しました。これからは、バカーがコロナ前のように多くの会場開催することが予定されています。BDPの縫製コースに新しい指導者が来ました。これからは事務局の担当の方とともに、バングラデシュの子どもたちの学びの喜びの為にグループの活動を続けられますように。バングラデシュの子どもの絵のカードをバカー等で広めていただきたいと思います。あなたの隣にバングラデシュを！！」

ACEFのビジョンとミッションについて

(関口弘美 評議員)

「ACEFのビジョンとミッションには「共に」「共働」など「共」という字が5回出てきます。このビジョン・ミッションを検討するワークショップを振り返ると、所属や年齢は幅広く、ACEFとの関わりも様々な人々が集い話し合う形は、「共」そのものと感じさせられたことを思い出します。

また、ミッションのひとつ目には「実践を模索する」とあります。話し合いの過程は、激しく変化するバングラデシュの社会とニーズに対し、経済的には長く低迷する日本の中でACEFの立ち位置を参加者一人ひとりが見直す機会となったと思います。その結果、ACEFは模索する組織であると表現されたことを記憶しています。

「共」という言葉は、心地よさと同時に覚悟のいること、簡単なことではないという不安を感させることがあるのではないのでしょうか。そんな時、ACEFは「共」に「実践を模索する」とうたうこのビジョン・ミッションが励ましになるといいなと思います。そのように励まされた個人を通じて、ACEFとBDPの活動もまた励まされ続けることを期待しています。」

Our Vision (私たちの目指す世界)

一人ひとりの尊厳が大切にされて、共に生きる喜びを感じられる社会を目指します。

Our Mission (私たちの使命)

1. アジアの人々とのパートナーシップ・共働から共に生きることの実践を模索する。

2. 未来の共生社会をつくりだす子ども・若者の可能性を開くための教育活動を支援する。

3. バングラデシュと日本とが学び合い、大人と子ども・若者がともに育つ場をつくる。



BDP事務局長が交代します

32年間にわたりBDPで勤められたAmbrose Gomes事務局長が9月末をもって退任し、新たにHemanta Corraya事務局次長が10月より事務局長に就任します。退任されるAmbroseさんから、皆さんへのメッセージが届いていますので、ご紹介します。



ACEFの皆様

1992年1月2日、当時ワールド・コンサーンのカントリー・マネージャーだったミナ・マラカール博士が、その傘下にあったサンフラワー教育計画（SEP）で働かないかと誘ってくれました。当初、本部事務局には私たち3人のスタッフしかおらず、フィールドはガジプールのプーバイル地区とダツカのミルプール地区にあるスラム街でした。就学前教室や成人向けの識字教室もいくつかありました。ACEFの創設者である船戸牧師とACEFスタッフの儀子さんが、ACEFの設立に携わりました。徐々にジャマルプール、ポリシャル、ボクシガンジ、ネトロコナの各地区で活動を始めました。大きな木の下や空きスペースで授業を始め、コミュニティから寄付された土地に竹と藁で小さな校舎を建てました。数年後、ACEFの援助でトタン小屋を建てました。私の記憶では、6つの地域に170の小学校がありました。教育プログラムの運営には、地元コミュニティの協力が不可欠でした。1999年、私たちはBDPを設立し、バングラデシュ政府のNGO局から認可を受け、状況は大きく変わりました。バングラデシュ政府は小学校を建設するために莫大な資金を割り当てましたが、中等学校はまだ不足しており、中等教育は村の子どもたちにとって少々高価です。

長年、子どもたちと一緒に仕事できたことをとても嬉しく思っています。マラカール先生、船戸先生、儀子さん、前田さん、小田さん、そして最後にさつきさんと一緒に仕事できたのは幸運だったと思います。皆さん勉強家で、一緒に仕事をするのが本当に楽しかった。スタディツアーのメンバーとしてバングラデシュを訪れた多くの日本人の友人に会う機会は、数え切れないほどです。私たちは互いの考えや文化、教育システムなど多くのことを交換し合いました。それはいつも楽しいことばかりではなく、時には困難な状況に陥ることもありましたが、神様はいつも私たちを助けてくださいました。ほとんどの日本人学生がバングラデシュ、バングラデシュ人、そしてバングラデシュの文化が大好きで、帰国後もバングラデシュの人々と連絡を取り合っていると知りました。彼らはとても友好的で、多くの日本人学生がバングラデシュを訪問した後、人生が変わったと聞きます。私は日本人と仕事をする中で、とても素晴らしい経験をしました。

現在、BDPの全体的な状況は、資金難のために十分とは言えませんが、それでもBDPは懸命に働き、地域社会から資金を生み出す努力をすべきです。それはとても難しい仕事です。地域社会はまだ精神的に他人のために何かをする準備ができていませんが、徐々に状況が改善されることを願っています。

最後に、バングラデシュの子どもたちのために懸命に働いてくれているACEFに連なる皆さんや日本の友人たちに感謝の意を表したいと思います。個人的には、私がBDPの事務局長をしていた間、助けてくださったすべての方々に感謝しなければなりません。どうか私と私の家族のためにお祈りください。日々の祈りの中で、皆さんのことを忘れることはないでしょう。皆さんに神の祝福がありますように。ありがとうございました。

アンブロス・ゴメス

前BDP事務局長のAlbert Malakarさんが召天されました



皆に慕われ、長い間BDP事務局をリードしてこられた、前事務局長のAlbert Malakarさんが9月17日、天に召されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。ACEFからは、荒谷出理事長より弔電をお送りし、先日奥様のMonica Malakarさんより以下のお返事をいただきましたので、ご紹介します。

「荒谷先生、ACEFメンバーの皆さま

アルバートの人生とBDPでの仕事に敬意を表し、また彼の突然の逝去に哀悼の意を表してくださった皆様に、アルバートに代わって、心からの感謝とお礼を申し上げます。

アルバートはプロフェッショナルとして長く仕事をする中で、多くの皆さんと個人的なお付き合いを長年続けてきました。このことは、彼の人生を様々な意味で豊かにしてくれました。アルバートと私は、皆さんに深い感謝の意を表したいと思います。

アルバートは、自身のバングラデシュの恵まれない子どもたちへの思いやり、彼らの苦境に対する洞察力、そして革新的で創造的な頭脳により、彼らの苦しみを和らげようと実践してきました。アルバートとBDPを支援し、優しさや寛大さによってこれを現実のものにしてくださった皆さんに心から感謝します。マラカール家一同は、このことをずっと忘れないでしょう。

モニカ・マラカール」

10月1日（日）グロフェス2023・今年も参加します！

外務省主催グローバルフェスタJAPAN2023に今年もACEFが参加します！2023年ACEFスタディツアー報告会というテーマのもと、バングラデシュから帰国した高校生や大学生を中心とした参加者からオンラインで報告いたします。今回はバングラデシュの現状報告だけでなく、来場者との交流も交えたアクティビティ盛りだくさんの企画をしております。**グロフェスWEBサイト**



▶ <https://gfjapan2023.jp/>



2023年ACEF秋のセミナーが開催されました！

9月24日（日）の15時より、東京第一友の家の会場をお借りして、ハイブリッド形式で2023年ACEF秋のセミナーが開催されました。オンラインと対面で合わせて約60名がお集まりください、共にACEFの活動やバングラデシュとの共働について知る時となりました。

第1部では福島祐子さん、ショヘル・ラナさんご夫妻よりバングラデシュの学校、教育、宗教、文化、日本と似ているところや違うところ…などお話いただきました。実際にバングラデシュにて小学校・中学校の教師として働かれていた方々の現場のお話を聞くと、まるでバングラデシュの人々の様子をイメージすることができてとても興味深く学びのある時間となりました。



また、第2部のACEF夏のバングラデシュスタディツアー報告会も現地から戻ったばかりの参加者から、スタディツアーで得た学びについて自分たちの言葉でお届けしました。スタディツアー報告者（PDF）はこちらからダウンロードいただけます！↓

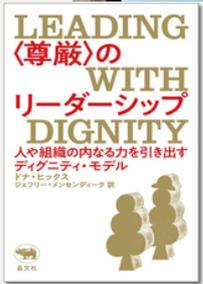
<https://acef.or.jp/kokunai/study-tour/>

また、当日の録画を見逃し配信としてYouTubeからご視聴いただけるよう現在準備しております。お楽しみに！

中学生から大人まで、本当にたくさんの方々にご参加いただき、応援いただき、心より感謝申し上げます！参加者アンケートへのご協力もよろしく（↓）お願いいたします。



『尊厳のリーダーシップ』 読書会に出席しました



9月12日に桜美林大学で『尊厳のリーダーシップ』読書会が開催され、ACEF事務局からもスタッフ2名がお邪魔しました。同大学准教授のジェフリー・メンセンディーク理事も一緒に、『尊厳のリーダーシップ』（ドナ・ヒックス著）の1～19章の内容を4名の発表者が説明（うち1名はACEFユースの柳井静香さん）、グループワークやディスカッションを通して学びを深めました。

10月14日（土）日本バングラデシュ協会講演会のご案内

～カラーチーに住む「ベンガリー」の子どもたちと教育～

ACEF理事・東洋大学福祉社会デザイン学部准教授の小野道子先生より、カラーチーの「ベンガリー」の人々の暮らしや子どもたちの教育課題についてお話しいたします。

日時：10月14日（土）14時00分～会場での対面及びオンライン参加

場所：日本キリスト教会館4階 A・B会議室

新宿区西早稲田2-3-18（早稲田奉仕園敷地内）

（地下鉄早稲田駅下車出口2 徒歩8分）

お申し込み：<https://forms.gle/yPxP4MzakCd5Pjf58>

主催：一般社団法人 日本バングラデシュ協会、共催：ACEF



9/23聖学院フェアにACEFが出店しました！

9月23日（土）、聖学院フェア（聖学院小学校主催）にACEFが出店し、バングラデシュのハンディクラフトを紹介しました。当日は2023スタディツアーメンバーの学生2名もサロワカミューズとルンギを着て、参加しました。私たちのブースの横では、宗教委員会の子どもたちが、大きな声で募金の呼びかけをしてくださいました。

今年は嬉しいことに多くの学校や教会でイベントが再開し、様々な団体からバザーのお問い合わせをいただいています。皆様の学校や教会でもバザーの予定がございましたら、ぜひACEFの品物をご検討ください。

問い合わせ先：bazaar@acef.or.jp





クラファン：補助金額訂正とリターン品送料のお詫び

7月7日よりスタートした実施されたACEFユース主催のクラウドファンディング「【現地ツアーとインターン実施】バングラデシュの子どもたちと共に歩む若者を応援！」この度はアジアキリスト教教育基金・ACEF Youthによるクラウドファンディング企画、『【現地ツアーとインターン実施】バングラデシュの子どもたちと共に歩む若者を応援！』への温かいご支援、誠にありがとうございました。すでに皆さまにお伝えしているスタディツアー参加者の補助金額に誤りがございましたので、次の通り訂正いたします。

誤) 補助希望者 各25,000円

正) 自己負担額10万～20万→3万円の補助・21万～全額→4万5000円の補助

また、リターン品の発送において、切手料金不足のケースがありました。ご迷惑をおかけした皆さま、大変申し訳ございませんでした（不足分をご負担いただいた皆さま、ありがとうございました）。

引き続きACEF Youthの活動にご関心を寄せていただけますと幸いです。よろしく願いいたします。

ICU秋のサービスマーケティング活動スタート！

2023年秋の国際基督教大学のサービスマーケティングプログラムでは、1年生1名、2年生3名、の合計4名の学生がACEFに来てくれています。11月末まで、ACEF事務局と共にファンドレイジングやイベントなどの活動を通して関わってくれます。どうぞ皆さまの応援をよろしくお願いいたします！

ACEF YOUTH

ユース活動指定寄付

日本とバングラデシュの人々がいかに

「共に生きる」ことができるか、体験し学ぶために皆さまのご理解と温かいご支援をお願いいたします。





ご案内：フェリス女学院 ACEFバンングラデシュスタディツアー報告会

フェリス女学院にて、柳原事務局長と2023年夏のスタディツアー参加者の石川芽生さんと阿久根里奈さんがスタディツアーの報告会を行います！
石川芽生さんはACEFユースメンバーです！

日時：2023年10月31日（火）12：20～13：00

会場：CLA棟の教室＋オンライン（ハイブリッド）

事前申込：<https://forms.gle/tfAUU1NnXZDpFyt3A>

こちらのフォームからお申込み下さい。前日までにZoom URLをお送りいたします。

主催：フェリス女学院大学ボランティアセンター

ぜひご参加ください！

ご報告：GOEN寄付のイラストコンテスト2022 結果が 公開されました

審査の結果、三島 伶太さん（小2）・梨花子さん（年少）の作品『ぼくたちわたしたちのまわりの寄付』が銀賞に選ばれました。伶太さん・梨花子さんは寄付先団体にACEFを指定くださり、GOENより協賛金5万円のご寄付をいただきました。また、惜しくも入賞には届かなかったものの、特に評価の高かった作品をご覧ください！

<https://fujipon->

[goen.wixsite.com/givingdecember2022/%E3%82%AE%E3%83%A3%E3%83%A9%E3%83%AA%E3%83%BC](https://fujipon-goen.wixsite.com/givingdecember2022/%E3%82%AE%E3%83%A3%E3%83%A9%E3%83%AA%E3%83%BC)

find us on
social
media!



ココからフォロー→ <https://linktr.ee/acef.ngo>



（特活）アジアキリスト教教育基金（ACEF）

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館26号室

tel 03-3208-1925 fax 03-6278-9180

担当：出立 メールニュースについてのご意見や配信停止はpublic@acef.or.jpまで